

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社 みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム みずほ野		
所在地	〒859-1212 長崎県雲仙市瑞穂町西郷巳797番地 (電話) 0957-61-8001		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成19年12月6日

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 16 年 11 月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	6人, 非常勤 10 人, 常勤換算 4,8 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 ~ 15,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	56 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田医院 よこた医院 瑞穂歯科医院 根木歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長は福祉の経験を活かし、福祉と自然が持つ癒しの部分を融合したホームを目指し、水の流れ、木々の葉の動き、鳥の鳴き声を聞きながら外で過ごして頂き、自然の里山の中で安心して過ごして頂く事に重点を置いている。又、音楽を流し、感性に刺激を与えられ、マンネリ化をなくし、農園や露天風呂で「動」を取り入れ、残存機能を活かしたケアをされている。今年度は「職員の質の向上」を目標に掲げ、全員の施設の意識を持ち、スキルアップの為の研修受講や、資格取得への協力を惜しまずバックアップされ、向上心が窺えるホームであり、入居者は自然と職員と一緒に穏やかな生活を楽しんでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に対し改善計画シートを作成し、介護計画の充実に重点を置き、他ホームに教わりに行かれ、成果が顕著に見られる等、改善課題はできる事から積極的に取り組まれ、質の向上に取り組む姿勢がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員に話し、施設長が大まかに書き、事務長が記述されている。自己評価を学習の一環として活用され、シートを全員に配布し、どのような事が問われているか理解され、現状を分析する事で気付きや向上心を持たれ、運営に反映される事が期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、利用者家族代表・地域包括支援センター・民生委員・施設長・従業者看護・従業者介護を構成メンバーとして2ヶ月に1回開催され、家族の意見やお話しができ成果が上がっている。7月と9月は日程調整の関係で休日にされ、参加者が少なく、可能な限り全員が一堂に会し、意見交換ができる取り組みが必要である。例えば次の開催日の確約をされるなどの取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) みずほ野通信を毎月発行し、家族にホームでの生活を知らせることで喜ばれている。意見箱の設置や、家族の来所時には声掛けをし、意見要望に対する傾聴体制をアピールされており、施設長の携帯に直接様々な事を言われることが多く、言い易い関係作りができています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設長がホームの横に居住されており、家族を交えて地域との交流を図られており、中学生の職場体験学習(評価日当日)の場に提供されたり、略2ヶ月に1回地域の老人が(14~15名)来所され、露天風呂やホームで入居者と楽しまれており、密接な交流の場を提供されている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域においてその人らしく、豊かな自然環境の中で安心して生活して頂く事をモットーとして、畑や庭園に囲まれ、福祉と造園の融合した支援に向けての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は「笑顔」を常に心がけ、理念をそれぞれ自分なりに理解し、自然環境の中で、のんびり・ゆったりと明るく過ごして頂きたいと、日々のケアで実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長がホームの横に居住しており、中学生の職場体験学習(調査日当日)の場の提供や、同じ敷地に老人の触れ合いの場を提供されており、略2ヶ月に1回、地域の老人が(14~15名)来所され、露天風呂やホームで入居者と楽しまれており、交流の場を提供されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対する改善計画シートを作成し、できる事から取り組み、介護計画は他ホームに相談され改善されており、努力の成果が見られる。自己評価は職員に話し、施設長が大まかに書き、事務長が記述されているが、全員の職員が理解しているとはいえない。	○	自己評価を職員の学習の一環として活用され、自己評価表を配布し、今のグループホームでどのような事を問われているかを全員の職員が理解され、現状を分析する事で、気付きや向上心を持ち、運営に反映される事が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族代表・地域包括支援センター・民生委員・施設長・従業者看護・従業者介護を構成メンバーとして2ヶ月に1回開催され、家族のお話や意見が聞け成果が上がっている。7月と9月は日程調整の関係で休日にされ、参加メンバーが少なく、開催日の工夫が必要である。	○	運営推進会議を活用される為にも、構成メンバーの殆んどが一堂に会し、意見交換が行われる事が重要であり、次の会議日を確約される等の取り組みに期待したい。

グループホーム みずほ野

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関することで、窓口を訪問し担当者と話したり、ホームからのお尋ねごと等で顔見知りが現状であり、今後連携を取りながら、前向きに交流を図る予定である。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	みずほ野通信(掲載写真に関しては話をされている)を毎月発行し配布(来られない家族には送付)し喜ばれている。入居者の状態変化や突発事項が発生した場合は電話で連絡している。金銭は預り証を発行し、毎月、月末締めでコピーして利用料と一緒に送付し、領収書は来所時に見せて了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の訪問時は声掛けを行い、何時でも聞く体制をアピールされており、施設長の携帯に家族から直接様々な事を言われる場合が多く、言い易い関係作りが出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は職員の生活の安定を考慮され、長く働いてもらいたいと考えられ、退職者はあまりないが、新人は入居者の前で紹介をし、一人ひとりに挨拶をされている。2ユニットと一緒に体操をしたり、レクリエーション等で顔馴染みであり、異動時もスムーズに行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為、職務の一環として復命で外部研修に参加し、報告書を作成し全体会議で発表されている。一部の職員のみでなく出来るだけ多くの職員が研修参加をしている。又、資格取得に対しても協力的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島ケア研究会に入会し、研修や交流会に参加されたり、夏祭りやジャガイモ堀等で行き来し交流を図り、ネットワークが確立されている。又、他ホームの優れた点を取り入れ、質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は入院中のケースが多く、病院に行き、医師・看護師・本人・家族と面談し、一旦ホームへ帰り職員と協議を行い、受理を決めている。利用に繋がるまで何度かお会いし、時には自宅訪問をしながら、安心して利用に繋がるように取り組まれている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から学ぶ場面は多く、料理・昔話・戦争の事等日々勉強になっており、一緒に生活をする同士として思いを共有し、支え合いながら、和やかな関係作りができています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	飾ることなく方言を交えながら入居者と話しをする事で、意向を把握して支援されている。意思の疎通が困難な場合は表情を見ながら、良い方向へ導いている。又、情報表とサマリーで入居者の情報を集約されているが、職員が介護に活用する為の十分な情報とは言えない。	○	入居者の基本情報を記述されているが、入居後に知り得た情報を詳細に追加記入され、その人なりが理解できる生活歴を充実され、職員の日々の介護におけるキーポイントとして共有に繋がるシートの作成が期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向に基づき課題抽出し、介護に当たる職員が参加して、ケア会議を開催し、ケアチェック表を考慮し、サービス内容の充実した個別な計画が作成されている。計画は家族に見せ同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成後3ヶ月毎と状態変化にサービス担当者会議を開催しモニタリングを行い、目標の達成度を把握し、今後の対応を全員で検討することで、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		

グループホーム みずほ野

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の思いの継続を守る為、通院介助・訪問看護・往診・農園・花畑・露天風呂・家族の宿泊等、ホーム独自の環境を活かして柔軟な支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望する医療機関や提携の病院により、密接な連携をとり、気軽に相談や指示を仰ぐことが出来、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う対応方針を検討され、希望があることを視野に入れ考慮されているが、現在の段階では医療行為ができず(現在医療連携に向け取り組み中である)病院にお願いされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を傷つけない目立たずさりげない言葉掛けを心がけ、プライドに配慮してケアに当たっている。月刊誌の写真掲載に関して家族の了解を取り、記録物を放置することなく、プライバシーに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の生活が決められているが、入居者の様子を見ながら外出や体操を取り入れ、無理強いすることなく、声掛けをしながら入居者を優先に支援されている。		

グループホーム みずほ野

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備・配膳・後片付け等の一連の流れを入居者と一緒にされている。時には農園で一緒に育てた野菜が食卓を飾る事がある。職員は食事介助に入られているが、職員の食事を作るのが大変という事から、同じ物を一緒にには食べられていない。	○	職員と入居者が家族として同じテーブルで一緒に食事をする家族団欒の意味で、食事を楽しむことに視点を置かれ、全員が無理であれば、検食として最低1名の職員と一緒に食べられる事が期待される。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回であるが、農作業後等汗をかいたときはシャワーを浴びる事もある。入浴拒否者には「明日は入りましょう」と次の約束をされ、状態に応じて清拭の場合があり、清潔保持に努められている。又、羞恥心に配慮し同姓介助に心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じて、洗濯物たたみ・配膳・下膳・カーテンの開閉・ゴミ箱作り・草むしりをされている。タバコの好きな人は事務所で管理しながら喫煙され、お金を持ち買い物に行く等、楽しみながら活力に繋がる支援をされている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スロープ付きの車両の購入で外出の幅が広がり、入居者の希望を取り入れ、気軽に外出できるようになり、雲仙・千々石方面や足湯・自宅訪問に行かれている。ホームは庭が広く畑を有しており、入居者は散歩や農作業を楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は入居者が安定しており、徘徊される人はいないが、鍵を掛けることの弊害を理解されており、外出傾向を把握しながら、目配り・気配りで支援されている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いによる昼夜を想定した消火・避難訓練を年2回開催されている。又、運営者が災害ボランティアをされており、消火器の点検を含めた非常災害対策の充実を図られているが、地震災害の訓練や非常時の備蓄や持ち出し品への取り組みはされていない。	○	運営者が専門的な知識を持たれている事から、地震・噴火・台風等を想定した訓練の実施や、非常時の持ち出し品の把握や、備蓄(飲み水は近くに有るとのことであるが)状況の充実が期待される。

グループホーム みずほ野

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の病状に合わせ、必要時には病院の指導やアドバイスを受け、バランスの取れた食事を、嚥下・咀嚼に配慮して、トロミ・刻み・ミキサー食(食材が分かるよう工夫)が支援されている。又、食事・水分の摂取量は個人ノートに記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は窓が広く、自然をイメージした庭園が、様々な角度から見ることで季節を感じられ、陽射しが優しく騒音のない静かな環境である。リビングにはホットカーペットやソファや畳に炬燵を置き、広縁には喫煙場所等、思い思いに過ごす場所の確保が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は木と花の名前を付け、入居者はカラーボックス・テレビ・椅子・衣装ケース・小物等のそれぞれの生活に必要な品を持ち込み(ユニットで居室環境の相違はあるが)生活を楽しまれている。		